

に大きく寄与した功績による。

予防業務の推進

東成消防署

地域担当

消防司令

山戸 保友

消防士長

阪峯 貴志

消防司令補

横田 澄克

運営方針に掲げる目標に向け、

住宅火災による死者の多くが高齢者であることに着眼し、高齢者への防火防災意識の高揚により経営課題である住宅火災の発生件数の低減及び被害の軽減に繋がるとして、先駆的に消防署一体となり高齢者防火に取り組む体制を確立、区内すべての介護事業所に対し研修を実施し、さらに介護事業者を通じて区内すべての要介護認定者約5千人に対し防火確認を行うこととに成功、地域においても様々な行事に合わせ効率よく研修を行い、研修内容はその地域の特性に応じて個別に作成し受講者の興味を惹くことでしっかりと知識の習熟を図り、震災訓練時には新たに講義時間を設けるなど、高齢者への防火防災知識の普及を推進させ、市

民が安全で安心して暮らせるまちづくり

賞詞

火災現場における救助活動

都島消防署

2部都島特別救助隊

消防司令補

守本 祐太

消防司令補

加賀 朋司

消防士長

山本 慎二

消防士長

波部 佑輔

令和元年11月16日、都島区の3階建倉庫兼寄宿舎で発生した火災現場において、建物2階の小窓から助けを求めている要救助者を発見、2階の玄関付近は激しく燃焼、室内にも火勢が押し寄せ要救助者の背後には火炎が迫る緊迫した状況の中、要救助者の救出を最優先とした放水を各隊へ徹底するとともに、迅速に三連はしごを架梯、かかえ救助にて安全に地上へ救出した功績による。

救急安心センターおおさか だより



桜の季節から、風薫る5月となり、待ちに待ったゴールデンウィークはどう過ごされましたか。

「ゴールデンウィーク」の名称は、昭和26年に上映となった『自由学校』という映画が大映創設以来(当時)最高の売上を記録し、正月映画やお盆映画以上の興行成績を残したことで、映画界でこの時期に多数の動員を生み出すことや活性化を目的として、当時の大映常務取締役であった松山英夫によって作成された宣伝用語が翌年以降に他の業界にも広まったのが語源だそうです。(Wikipediaより)

休みが多いから「ゴールデン」なのではなく、「映画の興行がゴールデンな週間」ということに驚くばかりです。

ゴールデンウィーク中は、病院も休診のため救急安心センターおおさかには多くの着信があります。過去3年間のゴールデンウィーク期間中の着信件数は、平日が1日当たり500件台で推移することに比べると、その3倍の1,500件を大きく超えます。

まさしくゴールデンウィークは、救急安心センターにとって「着信の件数がゴールデンな週間」です。

救急安心センターおおさか 着信件数

※ は土、日、祝日

	4/27	4/28	4/29	4/30	5/1	5/2	5/3	5/4	5/5	5/6
2017年	516	520	1,410	1,195	530	577	1,524	1,636	1,494	1,178
2018年	532	1,044	1,464	1,358	617	679	1,552	1,619	1,569	1,223
2019年	1,122	1,553	1,667	1,626	1,549	1,586	1,713	1,760	1,694	1,468